

古谷国有林 527い1、い2、い3、れ林小班 45.05ha

森林の公益的機能を最大限発揮させるためには、地形や地位、現在の植生状況等を踏まえ、施業方法に応じたゾーニングを行い、目指すべき森林の姿に向けた森林整備が必要です。

平成19～20年度に、①育成複層林施業、②育成単層林施業にゾーニングした試験区全域の間伐を実施。針広混交林化に向けて、2m四方のプロットを65箇所設定し、①については、高木性広葉樹の増加を図ることを目的とし、②については、効率的な施業により下層植生が豊かで健全な林分に誘導することを目的としました。

①の下層植生については、間伐直後に木本性稚樹が急増し、その後は微増を続けました。平成20～25年度の6年間及び29年度の樹種構成割合の変化を比較すると、ウリハダカエデ等短寿の割合が減少し、コナラ・ヒノキ等長寿の割合が増加しました。

②の下層植生については、平成20年度に114種、平成25年度に149種と種数が増加しました。その内訳では、高木性広葉樹の稚樹の割合が増加していました。被度も全体的に増加しており、下層植生が豊かになってきていますが、一方で林内相対照度が低下傾向にあり、今後間伐の実施により、下層植生の維持・導入、針広混交林化をめざし、今後も経過観察していきます。

